

## 滋賀県における今後の環境学習のあり方について (素案) に対する意見等

### 全体的な意見

- ・「4. 滋賀の環境学習を推進するために」での提案内容の整理 (提示するストーリーづくり) が不十分だと思います。特に「(2) 実践をファシリテートするリーダーを育て活かす」と「(3) 世代を超えて地域から学びあう・課題を解決する」の内容が重複しており、後者は内容がそのタイトルと一致していません。加えて、やはり人材育成の比重が大きすぎる印象があります。人材育成は大切ですが、小委員会での議論を踏まえるならば、もっと人材をつなぐこと、そして活かすこと (その方策) を強調するべきではないでしょうか (井手委員長)
- ・「(5) 滋賀をまるごとつなぐ」(P.13~) での提案について、環境学習センターの機能強化というより、琵琶湖博物館全体として (結果として、センターが博物館の中での中心的役割を果たすとしても)、滋賀県での今後の環境学習において、果たすべき機能を強化するとするべきではないでしょうか (井手委員長)

### 個別の意見

P.3 18行

- ・「・・・またボランティアなどの社会貢献が見直され・・・」この段落の趣旨とボランティアとの関係がよく分かりません (歌代委員)

P.5 31-32行

- ・「私たちが琵琶湖をもっと身近に感じ、その恵みに感謝し、環境問題についてともに学び考えることは、人と人のつながり、琵琶湖と人のつながりを取り戻す機会ともなるでしょう」 削除した方がよい (神部委員)

P.5 35行

- ・「持続可能な社会づくりのための環境学習」と  
「持続可能な社会づくり」を目指す学習として (神部委員)

P.6 29行

- ・「主体的に環境保全行動を行う人づくりによる持続可能な社会づくり」  
もう少しいい表現はないのでしょうか? (神部委員)

P.8 17行

- ・琵琶湖を守る県民運動を展開してきた滋賀だからこそ、課題解決に向けた実践の中から、様々なつながりに気づき、深め、さらなる学習のきっかけとしていくというアプローチが可能だと考えます。 削除した方がよい (神部委員)

P.11 42行

- ・文として、タイトルにある「活かす」というところまで明確に書けていませんでした。(井手委員長)

P.12 17-18行

- ・「大切なのは、地域に根ざした環境学習を進める人材(リーダー)をいかに見つけ、育て、活かすかです。」 これはその通りですが、この内容なら、「(2)実践をファシリテートするリーダーを育て活かす」に書かれるべきものです。これだけでなく、この「(3)世代を超えて地域から学びあう・課題を解決する」に書かれている内容は、このタイトルと一致していません。むしろ「(3)地域のリーダーを育て活かす」といった内容になっています。(井手委員長)

P.13 3-4行

- ・「例えば、地域人材に対する環境学習の企画のつくり方を学ぶ研修やファシリテーション(伝える・引き出す力)研修等がさらに必要です。」 これはその通りではありますが、P.11 32-35行の「さらにファシリテーション能力を持ったリーダー人材の育成が課題です。」と何が違うのでしょうか?(井手委員長)